

わたしの仕事 (22) 富士通株式会社

内藤 拓 (H23/2011卒)

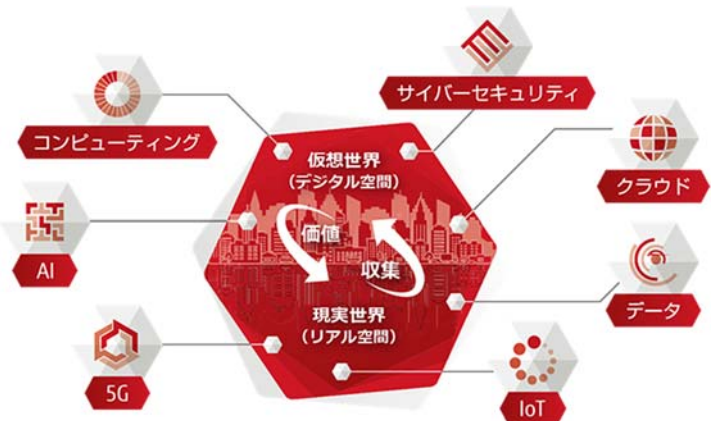


1. はじめに

私は京機会関東支部の若手副幹事を担当させていただいており、その縁でありがたいことに吉田先生から寄稿の依頼をいただきました。私は富士通株式会社に入社し8年目を迎えました。富士通と言えば最近では世界一の計算速度のスーパーコンピュータの富岳を製造したことで話題になりましたが、主はICTサービスを提供するソフトウェアの会社となります。最近のキーワードではAIやクラウドサービス、5G、ビッグデータなどの分野でよく名前を聞くかもしれません。京機会の方は自動車や電機などのハードウェアの会社に就職することも多いですし、私も学生時代に就職活動をした際はそれらの企業を先に見たことを覚えており、少しでもソフトウェアの会社の印象が変わればと思い投稿させていただきます。



スーパーコンピュータ富岳



富士通が提供するテクノロジー分野

詳細な仕事内容の前に自己紹介をさせていただきます。私は3回生までは体育会ゴルフ部の活動に専念しており、その経験により、社会人になった後も社内コンペや京機会のゴルフ大会に参加させていただくなど良い経験になりました。B4からM2までは機械システム創成学研究室（榎木研究室）で人と機会の共創の知の分野の研究をさせていただきました。直接的には現在の業務と学生時代の研究は異なる分野になりますが、UX（User Experience）の概念が浸透した今の世の中

に必要な理論を学ばせていただいたと感謝しています。

2013年に修了した後は富士通に就職し、入社以来ずっと品質保証業務に従事しています。最初の6年間は個々のプロジェクトの支援として品質監査や品質教育を、2018年からは全社ガバナンス業務として品質基準の策定やグループ会社への基準の浸透の業務をしています。京機会の人は就職すると設計業務や生産管理業務などに配属される人が多いので少し珍しい業務でイメージが付きにくい業務かもしれないです。

2. 富士通株式会社について

富士通がどのような会社かを考えるために2019年度の売上を見ると、3.9兆円の内、ICTサービスやクラウドサービスなどのソフトウェアビジネスが3.1兆円、スーパーコンピューターなどのハードウェアビジネスが0.5兆円、半導体などの電子部品が0.3兆円の会社です。ハードウェアが少ないこともあり直近3年の京機会からの就職を調べると、2018年は2名、2019年は0名、2020年は2名の合計4名とそれほど多くはないです。同業他社についても京機会からの就職はNECが3年で1人、NTTデータと日本IBMは3年で0人と少ない状態になっております。

しかしお客様の会社名を見るとトヨタ自動車や川崎重工、島津製作所など、京機会の人が就職する会社も多く、機械理工の思考力は必要になります。また、世の中の社会インフラを支えるためにはICT技術が必要となり、世の中の社会インフラを支える会社としてのやりがいを感じられると思います。

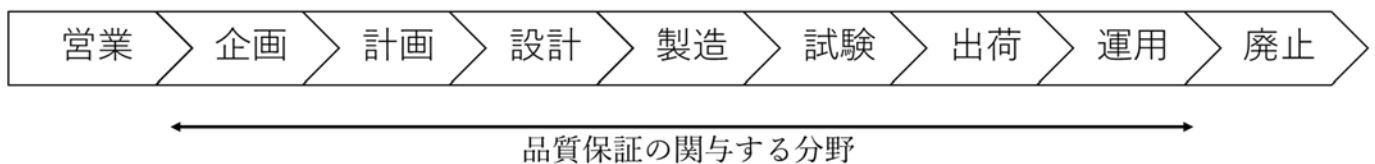


ICT技術が支える社会インフラ

3. 品質保証業務について

モノづくりのプロセスを簡略化すると企画→計画→設計・製造・試験を経て市場に出荷して良いか判断されます。また出荷された製品・サービスが安定して稼働するように出荷後に適切な管理をしていきます。品質保証の業務はこれらのモノづくりのルールを定めることや、適切にルールを運営されているか確認すること、ルールの見直しが必要な場合に改善すること、などを実施します。各々のプロセスと品質保証業務で行うことを記載すると下記ようになります。

- ・ 企画：市場やマーケティングの分析、販売計画などや技術的要件を検討
⇒品質保証業務では企画内容の実現可能性やリスクについて検証します
- ・ 計画：開発スケジュールや体制構築、レビューや試験の方法を検討
⇒品質保証業務では計画内容の妥当性や実現に向けた課題を検証します
- ・ 設計、製造、試験：計画に沿って、設計書作成やプログラミング、試験
⇒品質保証業務では設計書やプログラムのレビューや、試験の実施により妥当性を確認します。またレビューや試験内容を成果物の品質分析を行います
- ・ 出荷：要求事項が満たされていることを確認し市場に出荷
⇒品質保証業務では市場へのリリース要件を満たしているか検証します
- ・ 運用：お客様先で安定して製品・サービスが運用できるよう管理
⇒品質保証業務では状態の監視や変更発生時の対応を行います



このように品質保証業務は製品・サービスのライフサイクル全てに関わる業務となってきます。また、各プロセスを実現するために必要なルール作りを行うことも品質保証業務の一つとなります。

4. わたしの仕事

前述の例は1つのプロジェクトを確認する品質保証業務の説明をしました。わ

たしは全社横断的な品質保証を行う部門に所属し、各々のプロジェクトが適切に品質保証業務を運営できるように支援する業務をしております。富士通のお客様の業種を見ると「製造」「流通」「物流」「金融」「公共」「自治体」「官公庁」「ヘルスケア」「文教」「ライフサイエンス」と多岐に渡るために、社内の各部署のノウハウを集め、社内の最適な基準の制定や基準の浸透を行う活動をしていきます。

4-1 新入社員～4年目：品質監査業務

入社した当初は開発プロジェクトの監査業務をしていました。プロジェクトを成功に導くためには様々な品質保証活動が必要になりますが、その運営を適切に行えているか第三者の観点で確認する業務となります。単にルール通りの開発や運用を行えているかを確認する訳ではなく、効率的に品質リスクの低減活動ができているかに焦点を当てて確認をしていました。例えば、計画通りのレビューを行えていない場合、単にレビューを割愛すると後々に品質問題に繋がりますが、品質を確保しながら効率性の良い代替手段を適用する方が良いプロジェクト活動になります。そのようにルール通りにできない場合のリスク有無を確認していました。年間で80件程度のプロジェクトの監査を行い、開発者がどのような思いでプロジェクトを運営しているのか、プロジェクトごとの細かい開発手法の違いなどを勉強していました。

また、この時の経験を基に社会人4年目の時には日本科学技術連盟主催のソフトウェア品質シンポジウムと言う場で論文発表も行いました。学生の頃の学会発表は理論の実証のための場でしたが、社会人のシンポジウムだと実務面にどのように貢献できるかの発表という点で同じ論文発表と言っても中身が大きく異なることも感じました。



ソフトウェア品質シンポジウムでの発表@東洋大学

4-2 5年目～6年目：品質コンサルティング、品質教育

5年目になると前述の品質監査業務に加え、1つのプロジェクトの中に入り込んだ品質コンサルティング業務を行いました。具体的にはプロジェクトを成功に導くためのスケジュールや人材像、プロジェクトを評価するKPI（Key Performance Indicator、重要業績評価指標）、各情報の管理方法などをプロジェクトの人と検討します。プロジェクトが進むにつれて計画通りに進まないことも多々発生しますので、そのたびに改善方法も検討していきました。また、プロジェクトメンバに品質活動を行って貰うための品質教育の資料作成や教育講師を行いました。

品質教育については富士通外への外販ビジネスも行っており、品質保証部門に居ながら営業活動を経験することができました。社会人4年目までは品質リスクの低減だけを目的にしていたのですが、品質コンサルティングや教育で社内外の様々な人と深く話をすると、経営改善のための品質向上の必要性をより理解できるようになりました。

4-3 7年目～8年目（現在）：品質面からのグループ支援、CSR活動

7年目には富士通グループ会社全体の支援をする部門に異動しました。富士通は国内に約100社、国外に約300社のグループ会社があります。これらのグループ会社が自身の長所を活かしつつ富士通グループとしての守るべき品質ルールを遵守できるように支援をする業務を行っております。各グループ会社が適切な品質体制の構築をできるように支援し、また、グループ会社の品質の責任者の方々と協力して各社に品質向上活動をして貰う活動を行っております。

数百のグループ会社を相手にすると各社で強みも目的も異なるので、各社が納得して富士通グループとして一丸となった品質活動を行えるように富士通グループ全社に適用する最適な品質ルールの整備も行っています。COVID-19が流行してからはもっぱら電話会議になってしまいましたが、それまでは各社の人と打ち合わせをするためにあちこちへ出張させて貰い、2019年には30の都道府県に出張しました。様々な拠点で打ち合わせをすると、同じ富士通グループと言っても思惑の違いがあることをとても感じました。

5. 最後に

今のわたしの仕事を振り返ると、9月1日は金融業向けのサービスを提供する部

署と打ち合わせ、9月2日は製造業向けのサービスを提供する部署と打ち合わせ、9月3日は官公庁向けのサービスを提供する部署と打ち合わせ、9月4日はグループ
全社施策を考え、9月7日は流通業向けのサービスを提供する部署と打ちあわせ、
という感じで様々な部署と付き合っています。今回、本寄稿にあたり過去の「わ
たしの仕事」を読み返すとみなさま一つのプロジェクトを推進しているために分
かりやすく、それに比べて今回のわたしの仕事は分かりにくい部分も合ったか
と思います。

ただ、学生のみなさまも大企業に入社する人が多いと思います。その時にちょ
っと横の部署や、子会社の仕事内容を見ると、全く異なる仕事をしていることに
気がつくと思います。最近、大企業でも何か違うと思って会社を辞めてしまう人
も多いですが、その会社の事業を見直すと意外と今まで異なることに気が付くと
思いますので、就職した後も自分の会社はどういう会社かを常に考えると面白い
と思います。例えば京都大学の機械理工と一言で言っても研究室によって雰囲気
も習慣も大きく異なることと同じですね。

また、わたしは業務の他にも女子バスケット部の応援団や、部門横断の交流会の主
催、東京オリンピックのボランティアなどを行っています。この京機会の関東支
部の若手副幹事も業務外の活動ですね。また、思うことがあって2019年4月より
某大学院の社会人コースに入学し、2回目の大学院生活をしております。就職する
と学生の時以上に自分の好きにできることが増えるので、様々な活動を通じて、
自分が何をしたいかを考えると楽しい社会人生活を送れると思います。みなさま
も残りの学生生活とその後の社会人生活を楽しめるようにしてください。